

東部方面斎場（仮称）整備事業の進捗状況について（中間報告）

東部方面斎場（仮称）整備事業では、基本設計を11月に完了し、その後は実施設計に着手する予定です。今回は、現時点の基本設計の概要を御報告します。

1 建物概要

規 模	延床面積 約22,000㎡ 階数 地上4階/地下1階		
火葬炉設備	16炉（内予備1炉）1炉に対し1排気系統		
炉前ホール	16室（告別、収骨室兼ねる）	霊安室	約10体を安置 面会所も設置
待合機能	待合室16室（40人用）、待合ロビー、売店・喫茶、キッズスペース		
葬儀式場	3室	駐車場	150台以上（ほか臨時駐車場も整備）

2 施設計画

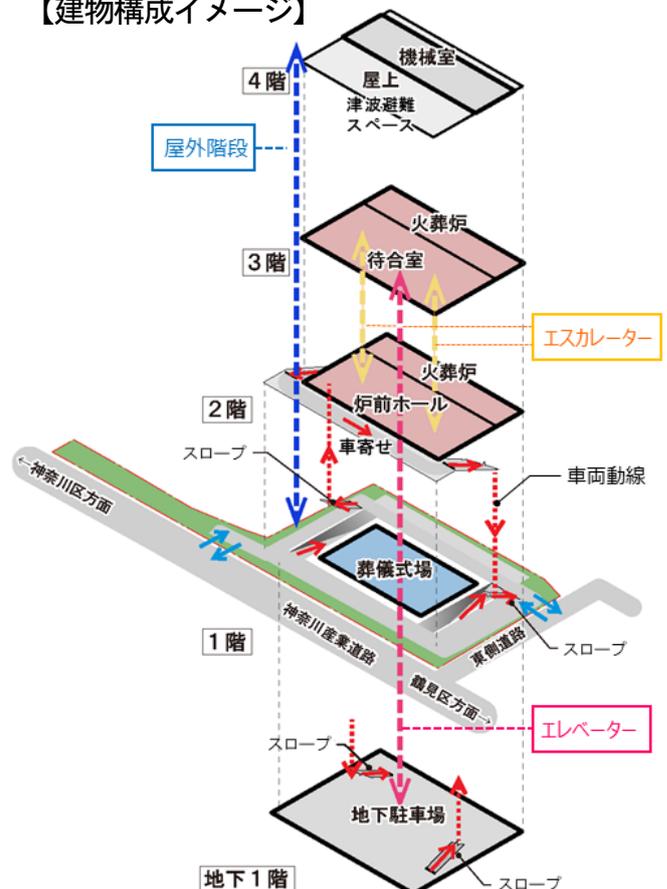
故人との最後のお別れの場として、葬送の厳粛性・静寂性を確保し、高齢者、障害者、乳幼児連れ利用者を含む全ての利用者が安全かつ円滑に利用することができるよう配慮して計画しています。

また、複数の会葬が同時に進行する際にも一つ一つの葬送を円滑に行えるよう、分かりやすく、動線の効率化を考慮した計画とします。

【各階概要】

階	概要
4階	管理部門など ・機械室等を配置 ・津波避難スペースを確保
3階	火葬部門 ・火葬の間、ご遺族・会葬者が休憩する待合室等を配置
2階	火葬部門 ・告別、収骨を行う炉前ホール等を配置 ・火葬部門車寄せ
1階	葬祭部門 ・通夜・告別式等を執り行う葬儀式場等を配置 ・葬儀式場車寄せ
地下1階	駐車場 ・地下出入口

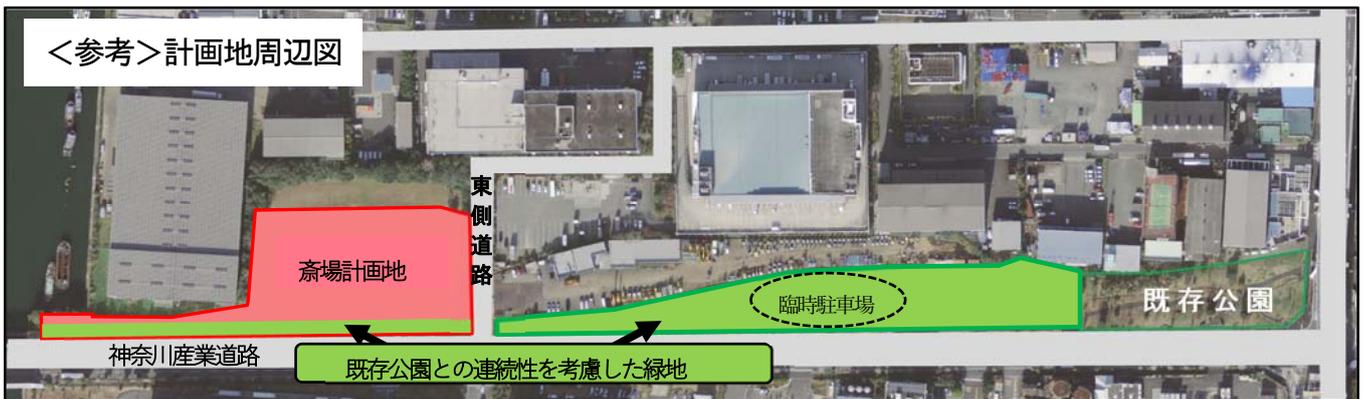
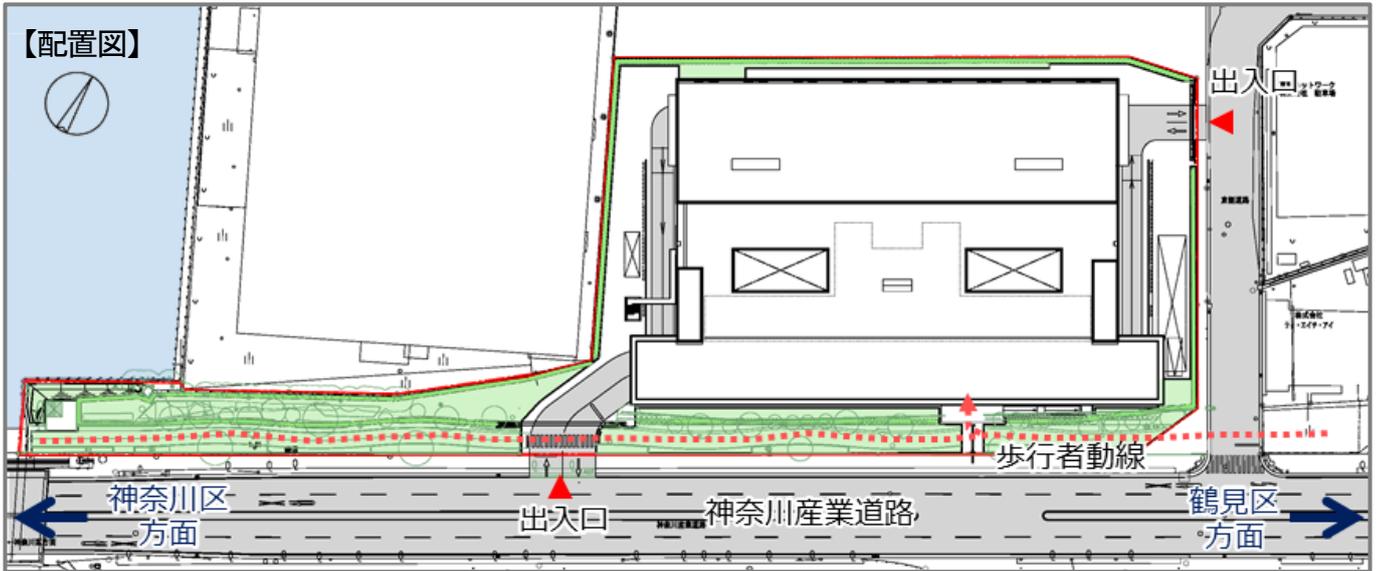
【建物構成イメージ】



3 配置計画

出入口は南側の神奈川産業道路及び東側の市道に1か所ずつ設けます。

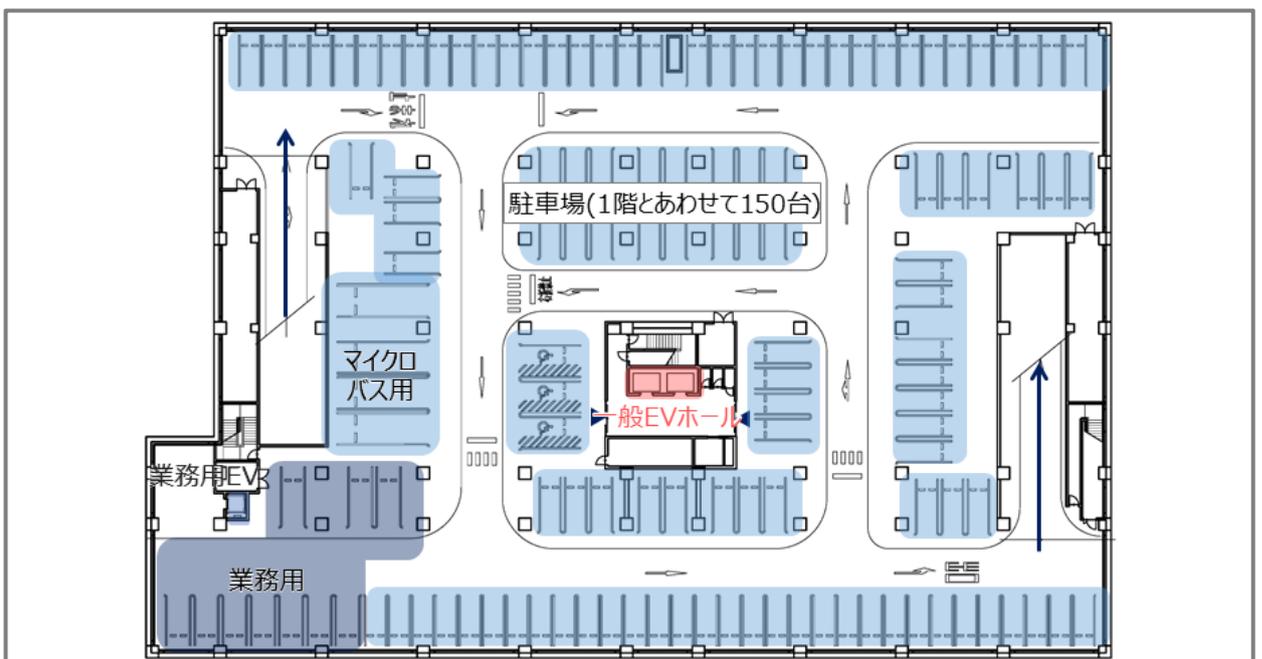
神奈川産業道路の沿道には、斎場計画地から既存公園（貨物線の森緑道）まで連続性を考慮した緑地を整備し、歩行者のアプローチを設けます。



4 各フロアの計画

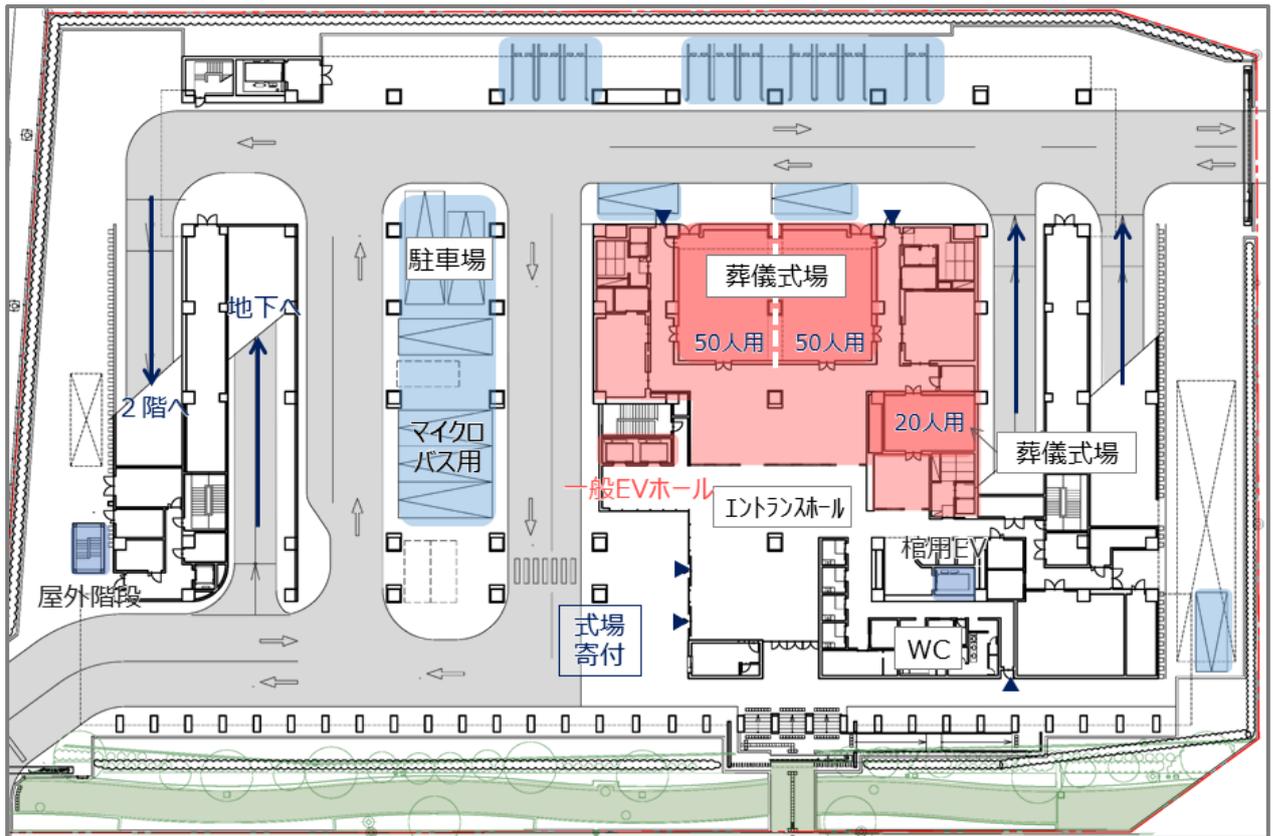
(1) 地下1階の計画

- ・ 駐車場とし、中央に3階まで連絡するエレベーターを配置します。



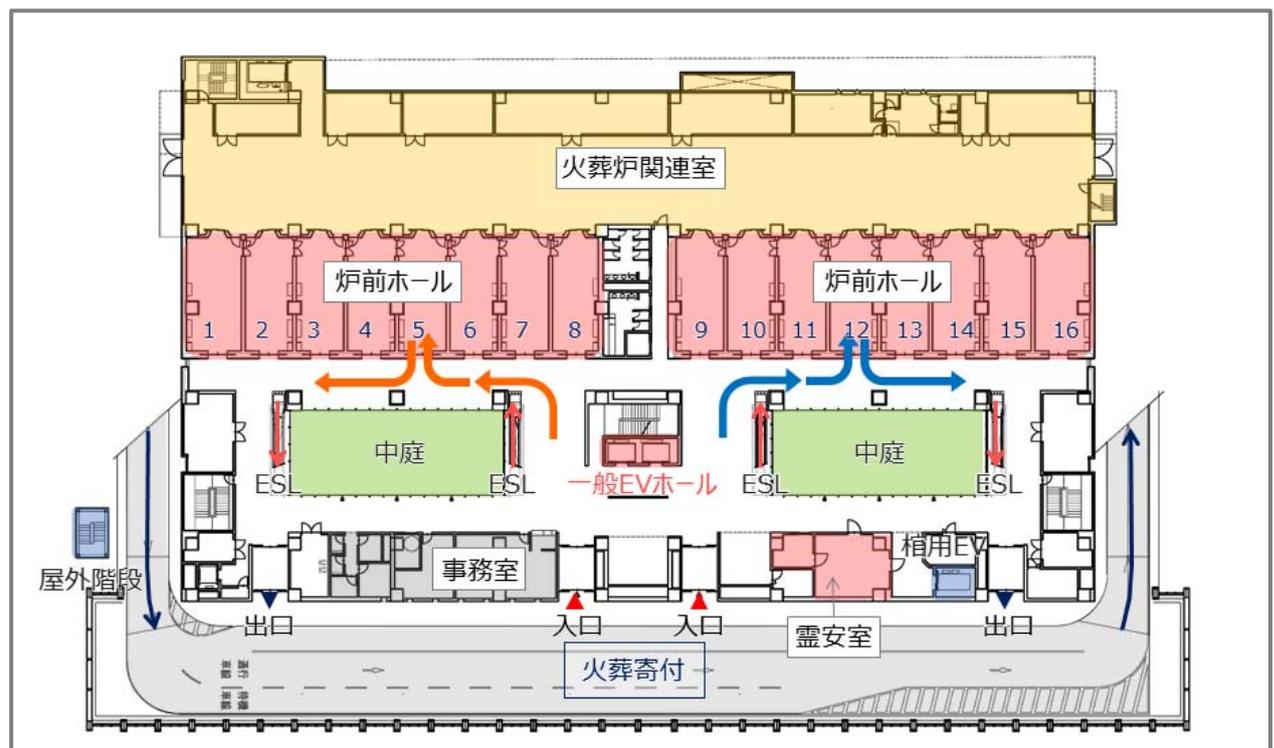
(2) 1階の計画

- ・主に通夜・告別式等を行うフロアとしています。
- ・葬儀式場は、葬儀の小規模化傾向を踏まえ、約50人用を2室、約20人用を1室設けます。



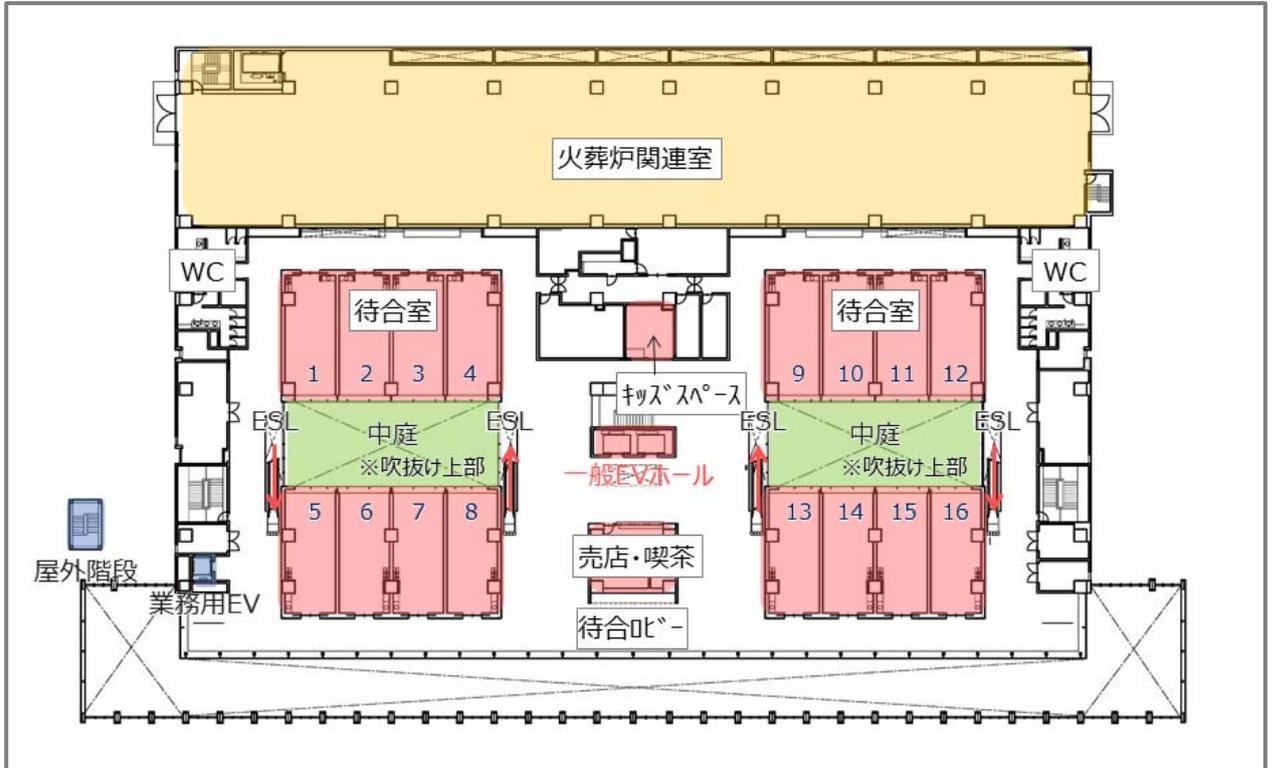
(3) 2階の計画

- ・火葬を行うフロアとして、斎場の主たる設備である火葬炉16炉（内予備1炉）を北側部分に一直列に配置し、南側をご遺族や会葬者が利用する区域としています。
- ・葬送の個別性を高めるため、火葬炉1炉に対して炉前ホールを1室整備するとともに、フロア内を中央のエレベーターで左右のゾーンに分け、一方通行の動線となるよう計画しています。
- ・霊安室は、ご遺体を約10体お預かりし、面会室も設置します。



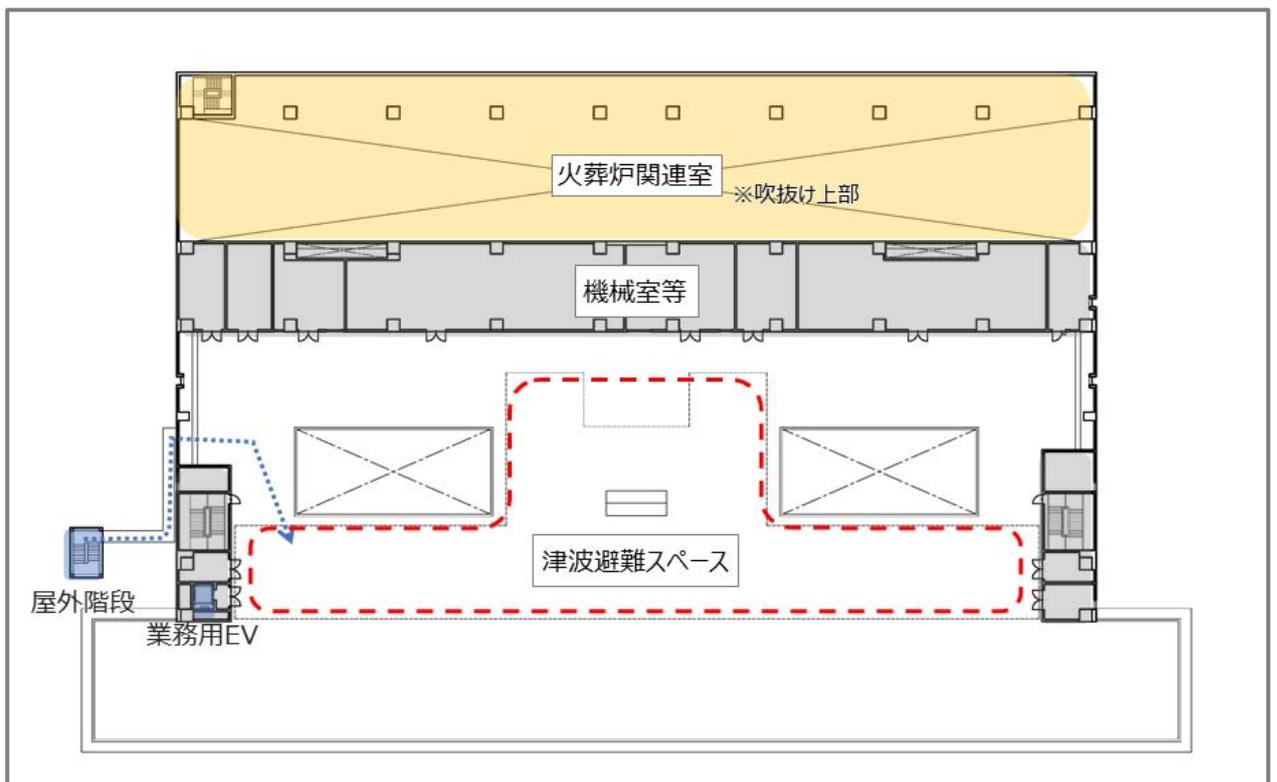
(4) 3階の計画

- ・火葬の間、ご遺族や会葬者の方にお待ちいただくフロアとしています。
- ・待合室（40人用）を中庭に面し、火葬炉と同数の16室配置します。
- ・中央部分には、待合ロビーや売店・喫茶機能のほか、キッズスペースを設けます。



(5) 4階（屋上）の計画

- ・主に北側に機械室などを配置し、南側には津波発生時の避難スペースを確保します。



5 環境への配慮

建築物の省エネ性能を高めるため、高効率型の機器を採用するほか、太陽光発電や地中熱等の再生可能エネルギー利用を導入し、環境への負荷低減を図ります。

また、木質化に取り組むとともに、既存公園と連続した緑地を整備し、生物多様性の保全に配慮します。

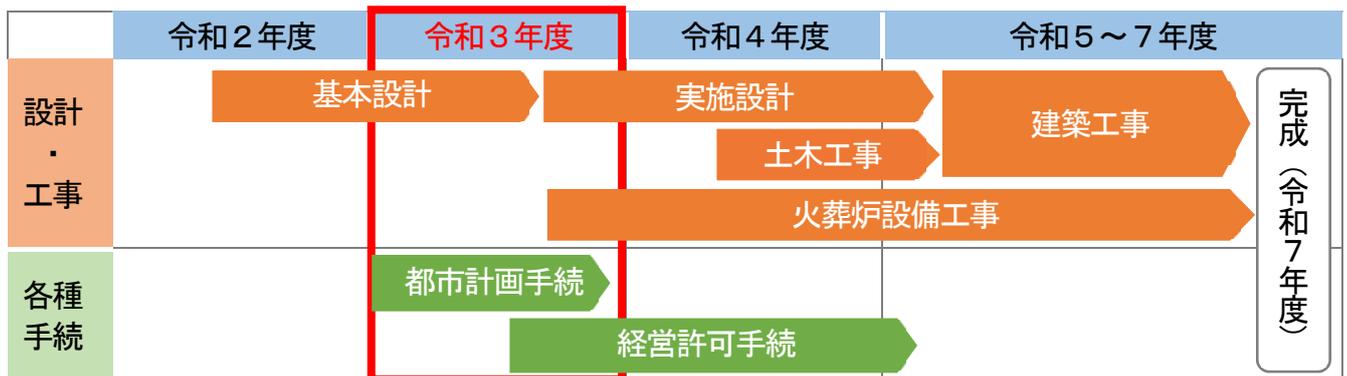
6 災害対策

計画地は臨海部に位置するため、高潮（被害想定：0.5m～1m）による浸水に備え、1階床レベルを既存地盤から約1m高くするとともに、火葬炉や受変電設備等の重要機器は津波（被害想定：1m～2m）による浸水深以上に設置します。

また、都市ガスや電力等のインフラが途絶した場合に備え、非常用発電機等の対策を検討しています。

併せて、津波発生時には、斎場利用者のほか計画地周辺の方々の一時的な避難施設として活用できるよう、屋上に避難スペースを確保し、斎場外部からアクセス可能な屋外階段を設けます。

7 スケジュール（予定）



8 地元説明会

毎年実施している地元説明会について、令和3年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、動画配信で実施します。配信開始は10月下旬を予定しています。